

あけまして
おめでとうございます



合併の 現実

佐渡市議会議長

竹内道廣

新年、明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言、所信を述べさせていただきます。

平成16年の合併以来すでに5年が経過しよ
うとしております。思い起こせば10か市町村
長、議会議員、青年会議所、商工会、学識経
験者、有識者と称する者、島内の絶対大多数
が合併賛成、佐渡は一つ、佐渡の発展は一
島一市と声高に叫び、疑うことなく合併した
が今、冷静に振り返り、佐渡市の現実はどう
なったか、誰一人として、この合併は成功し
たなどと思う者はいないであろう。大失敗で
あり、大失政である。

もしこの結果を良とする者がいたとしたら
ば、合併をすることで発展を求めたのでは
なく、合併をすることで静かで安らかな環境
のよい過疎の寂れた島づくりを求めた者だけ
であろう。最低、最悪の合併結果である。こ
の状況はこれからもなお、とどまる所を知ら
ない坂道を転がるが如く、どんどん悪化し、
このままいけば合併特例10年間、残り5年後
には間違いなく夕張市に最も近い状況に追い
込まれるであろう。合併が佐渡市の発展につ
ながるなどと唱え先導した者達は、この冷徹
な現実を突きつけられたことをどう捉えてお
るのか弁明など聞きたいものだ。頭を丸めて
猛省を求める。合併当初の人口7万人は毎年
1000人ずつ減少し、もうすでに5000
人の人口が減少している。にもかかわらず具

体的な対策を講ずるわけでもなく、ただいた
ずらに時が過ぎていくばかりだ。何がための
合併か、行政の予算縮小とともに佐渡経済は
毎年衰退し続けている。経営者の出来高は毎
年減少し続け、倒産企業は止まるところを知
らない。よって雇用状況は悪化の一途を歩ん
でおり、若者の就職先はほとんどなし、誰も
島に残れない。新規の企業進出はまったく見
込みなし、佐渡市はただただ衰退の道を一直
線に進んでおる。さあどうする。一島一市の
合併が間違いであり、さらに合併後の政策の
間違いが佐渡市を益々衰退に追い込んでお
る。合併特例は10年間だ、残りあと5年間で
佐渡市のあるべき姿を。予算規模は合併時
の530億円から250億円に、起債残高
は580億円から280億円に、職員数は
1700人から700人に削減し運営できる
自治体をつくるのが絶対条件だ。今の執行
部体制では無理だ。誰も自ら血を流す意志な
どない。執行部ができなければ誰がやる。議
会だ。議会以外にこのことを可能にできる機
関はない。議会の使命である批判と監視の府
としての役割に徹することだ。冷酷非情と批
判されても恐れず怯まずに改革をすすめる。
夕張行きは絶対にあつてはならない。議会に
ご理解をいただきたい。

